

1. 令和6年度 「ながさき農林業大賞 農林水産大臣賞及び長崎県知事賞」受賞者の概要

部門名	受賞者（組織）名	市町	概要
花き	はまつか 剛 はまつか えみ 恵美 浜塚	雲仙市	<ul style="list-style-type: none"> ・氏を表すブランド「TSUYOSHI'S FLOWERS」で販売されるカーネーションは、データと経験に基づき、手間を惜しまない管理により、高品質カーネーションとして全国の市場・小売店に広く認知され、取引されている。 ・害虫のふ化・生育抑制効果があるUV-Bランプ等の新技術の導入による減農薬栽培、徹底した土づくりや定期的な土壌分析に基づいた肥培管理を実践。 ・花びらを多色染めしたレインボーカーネーションは、高付加価値商品として取引されている。またこの生産は、障害者福祉施設と連携して行われており、障がい者の社会参画と農業分野の新たな働き手の確保につながっている。 ・長崎県花き振興協議会カーネーション部会の役員や雲仙市花き振興協議会事務局長を務めるなど地域のリーダーとしても活躍するとともに、本県花き及び地域農業に大きく貢献。

2. 令和6年度 「ながさき農林業大賞 長崎県知事賞」受賞者の概要

(1) トップファーマーの部

部門名	受賞者（組織）名	市町	概要
露地野菜	たかうら 勝宏 たかうら きょうこ 京子 高浦	西海市	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆでぼし大根を基軸としたすいか、かぼちゃ、ばれいしょ、千切り大根といった露地野菜を組み合わせた営農体系を確立。 ・適正な雇用労力の確保及び省力機械の活用により、高い労働生産性と規模拡大を実践。 ・JAゆでぼし大根部会部会長を務めており、西海市特産品であるゆでぼし大根産地の維持発展のため、高品質生産だけでなく、積極的に市場での販促活動、メディア等でのPR、食育活動にも取り組んでいる。またすいかについても「面高すいか」ブランドとして生産、販売を行っている。
施設野菜	おがわ ひろのり 博則 おがわ まいこ 麻衣子 小川	佐世保市	<ul style="list-style-type: none"> ・同一ハウスにおけるトマト・メロン栽培の周年出荷体系を確立。 ・部会内でいち早くスマート・省力機器を活用し、長崎型統合環境制御装置導入ハウスのトマトにおいては部会平均の2倍となる単収（17t/10a）やアスパラガスは自動かん水装置（点滴かん水）を導入し、県平均の1.7倍となる単収（2,887kg/10a）を実現。 ・労力確保のため、地域の青年農業者組織である佐世保市青年農業者連絡協議会へ作業委託する体制を整備するとともに、年間を通じた農福連携で地域雇用を創出。 ・柚木トマト部会長を務め、地域のリーダーとして活躍するとともに、研修生や農業体験の受け入れなど地域農業の振興にも貢献。
果樹	たにがわ よしひろ 義浩 たにがわ かずみ 和美 谷川	長与町	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅周辺に園地を集約し、約7割の園地での園内道整備や、軽トラックが活用できるよう小規模基盤整備を実施するなど省力化に努めるとともに、生産性が高い20年生以下の樹齢構成の園地が半分以上を占めるなど計画的な改植を行うことで県平均よりも約10ポイント高い生果率（91%）を実現。 ・平成17年に畑かん整備後にマルチ被覆とかん水施設を一体化したマルドリ栽培を導入。また現在は豚ふん堆肥ペレット混合肥料や令和3年～4年度にスマート農業現地実証プロジェクトの現地実証に参加するなど先進的な取組を行っている。 ・長与町認定農業者会長、長崎県JA果樹研究会副会長、JA長崎せいひ柑橘部会部会長等の数多くの役職に就任し、リーダーとして地域農業および本県果樹産地振興に大きく貢献。
畜産	おがわ ひろのぶ 博信 小川	雲仙市	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の肥育農家とともに繁殖経営の法人を立ち上げ、地域内一貫生産により素牛コストを削減。 ・枝肉生産技術は高く、全国和牛能力共進会長崎大会では優等賞3席、鹿児島大会では優等賞4席と長崎県で最も高い成績を上げ、長崎和牛のブランド向上に寄与。 ・氏が生産した牛肉を主に扱う実弟の焼肉店で消費者ニーズを把握し、そのニーズに基づく飼養管理の改善を行っている。また飼育状況など自らの活動や考えを定期的にSNS等で発信し、付加価値向上・販路拡大を実践。
農産	のうじくみあいほうじん 農事組合法人 ひろうとえいのうくみあい 平人営農組合	壱岐市	<ul style="list-style-type: none"> ・大麦、水稲、大豆を中心に、飼料作物、馬鈴薯栽培にも取り組んでいる集落営農法人。 ・直進アシストトラクターやラジコン草刈り機、水管理システムなどのスマート機器を県内でも率先して導入・活用し、省力化へ取り組んでいる。 ・大麦は、地元特産品である麦焼酎の原料として全量を蔵元に供給しており、蔵元が求める量・品質を確保するため、品種に応じた栽培体系を構築。また防除の徹底による品質向上や減化学肥料栽培にも取り組んでいる。 ・馬鈴薯は、壱岐でブランド化に取り組んでいる「壱岐黄金®」の生産にいち早く取り組むなど産地化をけん引。

部門名	受賞者（組織）名	市町	概要
特産	ふくだ しんや 福田 新也	東彼杵町	<ul style="list-style-type: none"> ・新品種「つゆひかり」、「さえあかり」など優良品種への改植を積極的に進め、早生品種から晩生品種まで幅広く植栽し、分散化による適期摘採を实践。適期摘採と高い製茶技術により、長年安定した高品質茶の生産を行っており、茶商からの評価は極めて高い。 ・地道な土づくりときめ細やかな茶園管理が評価され、県茶園共進会では、常に上位入賞し地域の茶栽培の模範となっている。さらに、全国茶品評会でも常に上位入賞し、平成30年度には日本一となる農林水産大臣賞を受賞するなど、自らの茶のみならずその茶ブランドの全国での認知度向上・確立に貢献。 ・地域の若手生産者とともに、海外での需要が高まっている「てん茶」の輸出に向けた取り組みを先導し、国の事業を活用し、アメリカやオランダでのプロモーション活動を積極的に行い、海外への販路を開拓したことで、福田氏の出荷先である(株) FORTHEESは県内トップクラスの茶の輸出事業者へ成長。
林産	かぶしきがいしゃ 株式会社 ながさきりんぎょう 長崎林業	諫早市	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の民間林業事業者では最も木材生産量が多く、高性能林業機械の保有台数や従業員の数もトップクラスであり、現場作業の進捗管理、課題分析に基づく改善を重ね、生産性向上につなげている。このような取組により、生産量は5年前より1.5倍と飛躍的に増加。 ・森林整備がまだ保育中心であった約20年前から、全国的にも先駆けて木材搬出のための作業道の技術者育成に力を入れ、作業道技術者では県内で唯一、路網作設オペレーター上級指導者に認定されている。全国各地で開催される森林作業道研修での指導実績も多く、県内外の技術者育成にも貢献。 ・県内の林業技術者の育成指導のほか、県の施策等の方向性の検討や取組推進のために組織している各種委員会等においても、林業事業者の代表的な立場で助言いただく等、県の林業推進活動への協力や魅力ある林業経営は、他の模範となっている。
しまの 農林業 経営	やまくち ひろゆき 山口 廣行	五島市	<ul style="list-style-type: none"> ・契約取引品目（かぼちゃ、たかな）を主体とし、安定的な収入を確保している離島の模範的な家族経営を实践。 ・令和4年に設立された「ほめられかぼちゃ生産部会」では、きめ細かな栽培管理により「ほめられかぼちゃ」のブランド率が85%（部会平均65%）、2年連続で収量が部会1位となるなど、部会での生産を牽引。 ・葉たばこ栽培の経験から取り入れた、定植初期の保温対策や防風対策技術は部会員が多く視察に訪れるなど、部会全体の安定生産に寄与。 ・高い生産技術や模範性から部会の役員を務め、産地の先頭に立ち献身的に活動。このほか、農業委員として地域農業の維持発展に寄与。

(2) いきいきファームの部

部門名	受賞者（組織）名	市町	概要
産地 集団	ながさきけんあうのうぎょう 長崎県央農業 きょうどうくみあい 協同組合 とうぶ 東部ハウス ぶかい ゴーヤー部会	諫早市	<ul style="list-style-type: none"> ・部会員数32人、1部会員あたりの平均作付規模は16.2aで、アスパラガスの転換品目としてにがうりの新産地を確立。 ・新規就農者を積極的に受け入れるとともに、就農にあたっては、部会による住居や遊休ハウスの斡旋、事業を活用したハウス建設など初期投資を抑えることで栽培に組みやすい環境を整え、前段の研究会発足から7年で販売額1億円規模の産地まで拡大し、他産地の模範となっている。 ・労力面では、8年前から農福連携に取組み、農作業の一部を福祉事業所に外部化することで省力化につながっている。また、学校給食への食材提供を通じて「食育」にも取り組んでいる。

(3) げんきビレッジの部

部門名	受賞者（組織）名	市町	概要
農山村 地域 保全	まほろし たかき 幻の高来そば しんこうきょうぎかい 振興協議会	諫早市	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源であるそばの在来種を保全する体制を確立するとともに、休耕地や耕作放棄地、干陸地を活用したそば産地の拡大を通じ、農山村の持つ多面的機能の維持、地域の環境保全に大きく寄与。 ・そばの栽培面では、高畝栽培や排水対策、イノシシ被害対策等を積極的に取り組むことにより、令和5年産の平均単収は全国平均の2倍と全国トップクラスの実績。 ・クラウドファンディングを活用して高来そばの食事処を整備するとともに、協議会が主体的に企画・運営を行う「新そばまつり」やそば打ち体験教室、小学校での食育活動、既存イベントととのコラボ等により、多くの人が郷土食文化に触れる機会を設けており、交流人口の拡大など、地域活性化にも大きく貢献。

3. 令和6年度 「ながさき農林業大賞 運営委員会長賞」受賞者の概要

(1) トップファーマーの部

部門名	受賞者(組織)名	市町	概要
露地野菜	まちだ ゆうき 町田 雄輝 まちだ かずひさ 町田 一久 まちだ かおり 町田 けいこ 町田 恵子	雲仙市	<ul style="list-style-type: none"> ・家族4人の労力で、ばれいしょを中心としたミニトマトとの複合経営を行っており、基盤整備事業の活用、省力化機械の導入、ドローン防除を取り入れている。 ・ばれいしょの単収、品質向上の取組として、抵抗性品種の導入や緑肥作付、堆肥施用、心土破碎による土壌物理性の改善も積極的に実施。 ・経営主である雄輝氏は地区営農組合の組合長、父である一久氏は土地改良区理事長等を務めており、家族で地域のリーダーとして地域農業の振興をけん引。
施設野菜	たなか さとし 田中 智 たなか みなみ 田中 美波	島原市	<ul style="list-style-type: none"> ・ほうれんそうを経営の柱とした大規模経営であり、多数の圃場で複数の品目・作型を組み合わせ、土地生産性の高い農業を实践。 ・宿舍等の整備を実施し、技能実習生を13名受入。11名の雇用を行うなど地域雇用の創出に貢献。 ・自社ブランドを自社のHP並びにECサイトで販売。Instagramによる情報発信やマルシェ出店により知名度向上を図っている。
果樹	たきぐち いさむ 瀧口 勇	川棚町	<ul style="list-style-type: none"> ・家族労力による収穫を行うため、露地みかんに加温・無加温ハウスみかん、中晩柑の栽培体系を組み合わせることで労力の平準化を実現。 ・ハウスみかんは多重被覆空気層生成機器(モンロードーム)を導入して重油使用量を削減し、生産コストを低減。 ・ハウスみかんの単収は3か年平均で7,319kg/10aと県平均4,638kg/10aと比較し非常に高い。ハウス内に無駄なく植栽し樹冠拡大させ、適期にせん定、施肥、温度管理等により連年多収生産を実現。 ・JAながさき県央北部青年部長等に就任し、県央北部地域の担い手代表として活躍。
花き	もり としろう 森 敏郎 もり ちか子 森 千佳子	諫早市	<ul style="list-style-type: none"> ・輪ぎく専業経営から、徐々に洋ぎくを導入。コロナ禍による社会情勢、需要構造の変化に対応するため、洋ぎくのための栽培へ転換。 ・輪ぎく栽培で培った技術を生かし、ヒートポンプの活用による燃油使用量の削減、夜冷とシェード栽培との併用により夏場の収量向上、品質向上を实践。 ・全国的組織であるOPTIMUM(ディスプレイ生産者等で組織)にも加わり勉強会、販売促進、産地間連携の模索など地域を越えた活動にも積極的に参加。
畜産	かぶしきがいしゃ 株式会社 よこた 横田ファーム	南島原市	<ul style="list-style-type: none"> ・高いブロイラー飼養技術を有し、床面の敷料切返しを行うなど良好な飼養環境で生産された高品質の鶏は出荷先からも評価が高い。 ・ひなの餌つけを長期間「手やり」で行うことで飼料ロスを削減し、良好な飼料要求率を実現。 ・全国のブロイラー生産者の中でも早く10年前にはLED照明に切り替え、鶏舎の監視カメラの導入、地元業者とともに電気系統に異常が発生した際の通知システムを構築するなど、省力化、効率化を实践。 ・南島原市養鶏協議会会長や南島原市認定農業者協議会役員を務めるなど地域のリーダーとして地域農業をけん引。
農産	のうじくみあいほうじん 農事組合法人 おのじま 小野島	諫早市	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロックローテーションによる転作大豆と裏作の麦生産、麦の防除作業を受託する集落営農法人。 ・大豆の部分浅耕—工程播種技術を1年間試験栽培したのち栽培の全面積で実施したことで、作業の効率化と適期播種が可能となり単収向上を実現。 ・地域の集落営農法人との生育状況協議による大豆収穫コンバインの共同利用や所有しているブームスプレーヤーを活用した麦の防除作業受託により、地域全体の省力化及び低コスト化に貢献。

部門名	受賞者（組織）名	市町	概要
特産	白石 万登 白石 美樹	南島原市	<ul style="list-style-type: none"> 高架型作業機（AP-1）や針ラック等の先進的な導入による大幅な省力化、環境負荷低減型乾燥機の導入など、地域の葉たばこ栽培のモデルとなっている。 技術の特色である自家製の植物性堆肥施用による土づくり、全圃場の明渠排水による立枯病対策等の高度な生産技術を有し、新しく導入された新品種「F80」の特性（省力化効果）把握により、一層の効率化を実現。 葉たばこを主に雑穀や、たかなとの複合経営を行い、高収益を実現。特に葉たばこについては、高い生産技術をもとに、県平均と比較して単収、単価ともに非常に高い実績をあげており、令和5年度に南島原市が市町村別葉たばこ販売実績では、全国228市町村中第2位という好成績をあげるために大いに貢献。
しまの農林業経営	久保 博敬	吉岐市	<ul style="list-style-type: none"> 肉用牛繁殖経営において、早期離乳技術による分娩間隔の短縮を図り1年1産を行う高い生産性を実現するとともに、全飼料を自給するなどコスト低減を図り、島内の基幹農業である畜産経営の模範となっている。 高齢化が急速に進む離島農業において、水稲および飼料生産に関する作業を約60戸（延べ面積108ha）から受託しており、地域の機械導入コスト低減と省力化の一端を担うことで地域農業を下支え。 堆肥保管庫を整備し地元堆肥センターの堆肥を受け入れ流通させることで、島内の資源循環に貢献。 島内での農作業死亡事故を受けて吉岐地区農業機械士連絡協議会の設立に尽力し、現在会長を務めるほか、数多くの組織の役員に就くなど、地域農業へ模範的に貢献。

（2）いきいきファームの部

部門名	受賞者（組織）名	市町	概要
産地集団	JA島原雲仙 匠の菊生産組合	雲仙市	<ul style="list-style-type: none"> 部会員数8人、1部会員あたりの平均作付規模は62.5aで、県内トップレベルの輪ぎく生産技術を有する組織。 気象災害に強い低コスト耐候性ハウスを導入し安定生産を図るとともに、ヒートポンプによる冬の燃油削減と夏の夜冷栽培技術や炭酸ガス施用による環境制御技術を全国でもいち早く導入し、単収や品質の向上を実現。 省力化品種や高規格施設、各種制御機器をいち早く導入し使いこなすなど常にパイオニア的な役割を果たし、本県の輪ぎく栽培技術を常にリードしている。

4．令和6年度 「ながさき農林業大賞 特別賞」受賞者の概要

（1）特別賞

部門名	受賞者（組織）名	市町	概要
特別部門	株式会社 ディーソール NSP システムファイブ株式会社	長崎市	<ul style="list-style-type: none"> 長崎県と連携し、既製品より安価な長崎型統合環境制御装置を開発したことにより、本県農家へ多く導入され、スマート技術の普及に貢献。 ハウス内の環境データの一元集約管理が可能となり、データの蓄積や生産者間のデータの比較・分析が容易になったことで、指導員を中心として各地域の勉強会組織の立ち上げが進むとともに、指導員の環境制御技術に対する指導力の向上に寄与。 データの共有、分析が進んだことにより、施設園芸における生産者のデータ活用に関する意識が大きく変化するとともに、単収などの生産性の飛躍的な向上に寄与。特に、いちごにおいては単収向上並びに産地の維持拡大にも大きく貢献。